

平成 28 年 2 月 10 日

平成 26 年度 線区別の収支状況等について

1. 平成 26 年度 線区別の収支状況について . . . 【資料 1】

2. 「極端にご利用の少ない駅」(速報)について . . . 【資料 2】

3. 経過年数の進んだ土木構造物・建物の状況
並びに耐震補強等の必要性について . . . 【資料 3】

平成26年度 線区別の収支状況について

○全線区を公表するにあたって

第1回地域公共交通検討会議では、輸送密度500人未満の線区の収支状況を公表しましたが、他線区の収支状況についても情報開示を求めのご意見を頂いていることから、今回、全線区の収支状況を公表することとしました。

また、前回含めなかった本支社等の管理費について今回は全線区を対象としていることから、一定の考えに基づき全線区に配分しています。このため、輸送密度500人未満の営業費用、営業損益、営業係数については前回とは異なっています。

1. 管理費の配分について

- ・今回、全線区を公表するにあたり管理費156.8億円を全線区に費用見合いで配分しています。
- ・前は、輸送密度500人未満の線区の収支状況であり、より実態に近い直接経費のみとし、管理費は配分していません。

2. 札幌圏について

札幌圏は、函館線(小樽～札幌～岩見沢)、千歳・室蘭線(白石～苫小牧)、札沼線(桑園～医療大学)であり、収入では、例えば札幌駅の券売機で発売した切符の多くは、金額表示であり、ご利用になった線区を特定することができません。一方、費用では、多くの電車が直通で運転していることや鉄道施設を管理する保守部門が線区を跨がっていることから、線区ごとに収入・費用を配分することが実態に則した線区の収支状況にはならないと考え、札幌圏を一まとまりとして公表することとしました。

〈参 考〉日本国有鉄道経営再建促進特別措置法による基準

○幹線系線区	輸送密度	8,000人以上
○地方交通線		8,000人未満
転換対象路線		4,000人未満
・第1・2次特定地方交通線		2,000人未満
・第3次特定地方交通線		2,000人以上4,000人未満

平成26年度 線区別の収支状況

線 名・区 間		営業 キロ (km)	輸 送 密 度 (人/キロ/日)	収 支 (百万円)						営業係数(円)	
				営業 収益 (A)	営業費用		営業損益				
					鉄道計 (B)	管理費 (C)	営 業 費 用 (D)=(B)+(C)	管理費 除 く (A)-(B)	管理費 含 む (A)-(D)	管理費 除 く (B)/(A)	管理費 含 む (D)/(A)
留 萌 線	留 萌～増 毛	16.7	39	5	212	20	232	△ 207	△ 227	4,161	4,554
札 沼 線	医療大学～新十津川	47.6	81	16	307	41	348	△ 291	△ 332	1,909	2,162
石 勝 線	新夕張～夕 張	16.1	117	14	172	24	196	△ 158	△ 182	1,247	1,421
根 室 線	富良野～新 得	81.7	155	60	856	96	952	△ 796	△ 892	1,430	1,591
留 萌 線	深 川～留 萌	50.1	177	46	605	89	693	△ 559	△ 647	1,316	1,508
日 高 線	苫小牧～様 似	146.5	298	143	1,462	224	1,687	△ 1,319	△ 1,544	1,022	1,179
宗 谷 線	名 寄～稚 内	183.2	405	487	2,649	382	3,031	△ 2,161	△ 2,544	543	622
根 室 線	釧 路～根 室	135.4	436	247	1,089	158	1,247	△ 842	△ 1,000	441	505
根 室 線	滝 川～富良野	54.6	460	120	996	152	1,148	△ 876	△ 1,028	827	953
釧 網 線	東 釧 路～網 走	166.2	466	334	1,739	247	1,986	△ 1,405	△ 1,652	520	594
500人未満 計		898.1	347	1,473	10,086	1,434	11,520	△ 8,613	△10,047	685	782
室 蘭 線	沼ノ端～岩見沢	67.0	516	124	1,112	142	1,255	△ 988	△ 1,130	896	1,011
江 差 線	木古内～江 差	42.1	618	27	78	6	84	△ 51	△ 57	292	314
函 館 線	長万部～小 樽	140.2	675	439	2,192	314	2,506	△ 1,753	△ 2,067	499	570
石 北 線	上 川～網 走	189.1	1,051	1,278	3,631	554	4,185	△ 2,353	△ 2,907	284	327
室 蘭 線	室 蘭～東室蘭	7.0	1,342	91	350	54	404	△ 259	△ 313	385	445
富良野線	富良野～旭 川	54.8	1,406	338	1,077	159	1,236	△ 739	△ 898	319	366
石 北 線	新旭川～上 川	44.9	1,489	389	930	132	1,062	△ 542	△ 673	239	273
宗 谷 線	旭 川～名 寄	76.2	1,512	724	2,274	369	2,643	△ 1,550	△ 1,919	314	365
500人以上～2,000人未満 計		621.3	1,027	3,410	11,645	1,730	13,375	△ 8,235	△ 9,965	342	392
根 室 線	帯 広～釧 路	128.3	2,259	2,217	4,699	752	5,451	△ 2,482	△ 3,234	212	246
函 館 線	函 館～長万部	147.6	3,765	4,566	7,628	1,220	8,848	△ 3,061	△ 4,281	167	194
海 峡 線	木古内～中小国	87.8	3,851	3,333	3,660	556	4,216	△ 327	△ 883	110	126
2,000人以上～4,000人未満 計		363.7	3,255	10,117	15,987	2,528	18,515	△ 5,871	△ 8,398	158	183
石勝・根室線	南千歳～帯 広	176.2	4,270	6,337	7,158	1,108	8,266	△ 821	△ 1,929	113	130
江 差 線	五稜郭～木古内	37.8	4,377	1,261	2,735	390	3,125	△ 1,474	△ 1,864	217	248
室 蘭 線	長万部～東室蘭	77.2	5,022	2,836	3,335	498	3,833	△ 499	△ 997	118	135
室 蘭 線	東室蘭～苫小牧	58.0	7,736	3,113	4,116	653	4,769	△ 1,003	△ 1,656	132	153
4,000人以上～8,000人未満 計		349.2	5,023	13,547	17,344	2,649	19,993	△ 3,797	△ 6,446	128	148
函 館 線	岩見沢～旭 川	96.2	9,320	5,889	7,284	1,123	8,407	△ 1,394	△ 2,517	124	143
札 沼 線	桑 園～医療大学	28.9	16,873	39,721	36,163	6,220	42,383	3,557	△ 2,662	91	107
函 館 線	札 幌～岩見沢	40.6	43,025								
千歳・室蘭線	白 石～苫小牧	68.0	43,433								
函 館 線	小 樽～札 幌	33.8	44,099								
8,000人以上 計		267.5	28,519	45,610	43,447	7,343	50,790	2,163	△ 5,180	95	111
合 計		2,499.8	4,791	74,157	98,510	15,684	114,194	△24,353	△40,037	133	154

※ 合計には、出向社員給与などを含まないため、鉄道事業計とは一致しない。

鉄 道 事 業 計	2,499.8	4,791	75,664	—	—	117,131	—	△41,467	—	154
-----------	---------	-------	--------	---	---	---------	---	---------	---	-----

(注)1. 輸送密度とは、旅客営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員をいう(線区輸送人キロ÷営業キロ÷日数)。

2. 営業費用には、本社計画部門などの管理費15,684百万円を含んでいる。

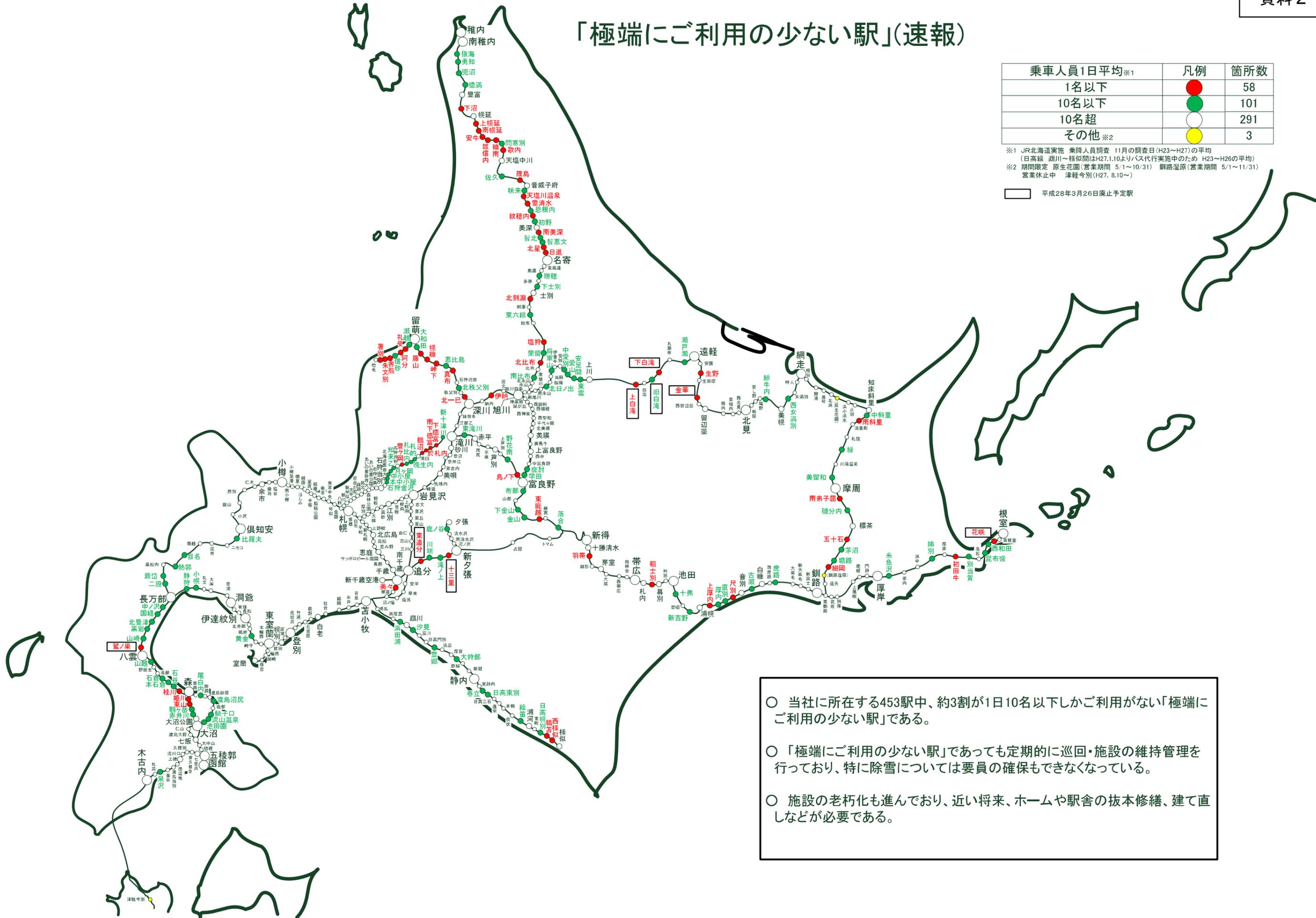
3. 営業係数とは、100円の営業収益を得るために必要な営業費用の指数をいう。

「極端にご利用の少ない駅」(速報)

乗車人員1日平均※1	凡例	箇所数
1名以下	●	58
10名以下	●	101
10名超	○	291
その他※2	●	3

※1 JR北海道実施 乗降人員調査 11月の調査日(H23~H27)の平均
(日高線 釧川~様似間はH27.1.10よりバス代行実施中のため H23~H26の平均)
※2 期間限定 原生花園(営業期間 5/1~10/31) 釧路温泉(営業期間 5/1~11/31)
営業休止中 津軽今別(H27. 8.10~)

□ 平成28年3月26日廃止予定駅



- 当社に所在する453駅中、約3割が1日10名以下しかご利用がない「極端にご利用の少ない駅」である。
- 「極端にご利用の少ない駅」であっても定期的に巡回・施設の維持管理を行っており、特に除雪については要員の確保もできなくなっている。
- 施設の老朽化も進んでおり、近い将来、ホームや駅舎の抜本修繕、建て直しなどが必要である。

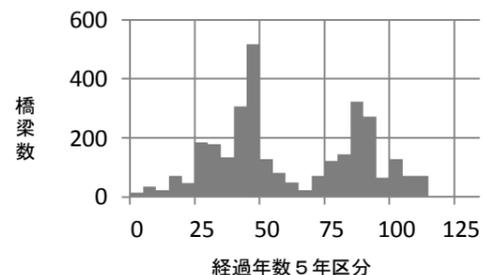
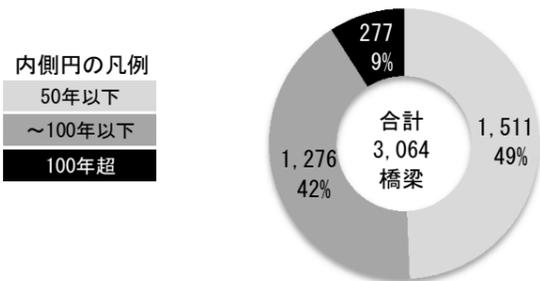
経過年数の進んだ土木構造物・建物の状況並びに耐震補強等の必要性について

当社は平成27年3月20日に「安全投資と修繕に関する5年間の計画」（以下、計画）を策定しましたが、計画においては、当面の5年間は優先度の高い施策を中心に推進することとしており、当面の施策とは別に、土木構造物や建物等の改修・更新や耐震補強については中長期的に取り組む抜本的な対策として整理し、対応を検討することとしています。

当社の土木構造物・建物等は鉄道敷設時に整備された一群と、戦後の輸送力増強期に整備された一群により構成されており、殊に鉄道敷設時に整備され経過年数（以下、経年）が進んだ施設は抜本的な改修・更新が必要な時間帯に差し加かろうとしています。また、様々な施設の耐震補強が必要であり、経営上の大きな負担となってきます。

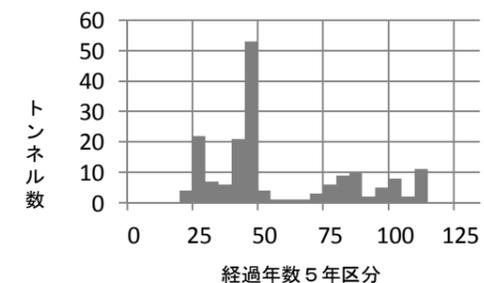
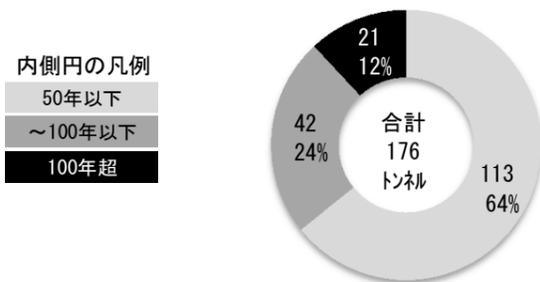
1. 橋梁（橋長1m以上、高架橋を除く）

- 全体の半数を超える橋梁が経年50年を超え、約1割は100年を超えています（円グラフ、棒グラフ）。
- 大動脈の輸送を支える区間にも、経年の進んだ長大橋梁があります（右図 ①新夕張川橋梁）。
- 経年の進んだ橋梁の中には、災害復旧と今後の運営について協議をさせていただいている日高線の長大橋梁（右図 ②厚別（あっぱつ）川橋梁）があります。
- 経年の進行に加え、地盤の影響を受けている橋梁（右図 ③サロベツ川第1避溢（ひいつ）橋梁）もあります。



2. トンネル

- 全体の3分の1が経年50年を超え、21トンネルは100年を超えています（円グラフ、棒グラフ）。
- 経年の進行の他に、地山の影響による変状対策（右図 ④女満別トンネル）や、冬期の凍結対策（右図 ⑤稚南部（わかなんべ）トンネル）もトンネルを維持管理する上での大きな負担となっています。



3. 高架橋

- 道内には16か所の高架橋があり、耐震診断を実施して、補強対象を選定していきます。
- 新札幌高架（右図 ⑥）と千歳高架の耐震補強に優先的に取り組むこととして耐震診断を進めており、今後、補助金の活用に向けて関係自治体等へお願いをしております。

4. 建物

- 建物については、老朽対策に加え、必要な耐震補強も進めているところであり、多額の工事費を要すると見込んでおります。

主な施設例（経年は平成28年1月現在）

輸送密度区分	営業キロ割合
500人未満	36%
500 ~ 2,000	25%
2,000 ~ 4,000	14%
4,000 ~ 8,000	14%
8,000 ~ 10,000	4%
10,000 ~ 20,000	1%
20,000人以上	6%

※ 日高線（苫小牧～様似）は平成27年1月より盛土流出で、留萌線（深川～増毛）は平成27年2月より土砂崩壊の恐れが続くことで、それぞれ運休しているため、日高線は12月まで、留萌線は1月までの実績を用いて算出



③サロベツ川第1避溢（ひいつ）橋梁
[経年の進行への対策、軟弱地盤（サロベツ原野）にあることによる変状への対策]

39.14m 経年89年（大正15年完成）
宗谷線 徳満・兜沼 間

④女満別トンネル [経年の進行・地山の凍結による変状対策]

81.5m 経年103年（大正1年完成）
石北線 女満別・呼人 間



①新夕張川橋梁 [経年の進行への対策]

上下線各523.02m 経年81年（昭和9年完成）
函館線 江別・豊幌 間



⑤稚南部（わかなんべ）トンネル [経年、漏水の凍結等]

161.3m 経年98年（大正7年完成）
石勝支線 清水沢・鹿ノ谷 間



⑥新札幌高架橋 [耐震補強]

総延長1,942.28m（昭和43～48年完成）
千歳線 平和～新札幌～上野幌の間



②厚別（あっぱつ）川橋梁
[経年の進行、橋脚の洗掘]

296.99m 経年84年（昭和6年完成）
日高線 厚賀・大狩部 間

